

伊予高授業にA I 導入

探究学習支援 学びの質向上目指す

生成A Iによる支援ツールを用いて
探究活動に取り組む伊予高校生

11月4日午後、松前町北黒田



軽減を目指す。

松前町北黒田の伊予高校で4日、ソフトウェア開発のアイサイト(松山市)と共同開発した探究学習支援ツール「LooQ(ルーク)」の本格導入が始まった。生成人工知能(AI)を活用して探究活動の記録やフィードバックを行い、学びの質向上と教員の負担

「課題が設定できた人からルークに今日の内容を入れて」。空野剛教諭(37)がリーダーシップについて学ぶ授業の後半、入力を促した。生徒たちはタブレット端末やスマートフォンなどからそれぞれが打ち込む。後期の探究課題と活動

記録を入れてボタンを押して約1秒。「素晴らしい発見ですね。次は…」「今後は直接体験談を聞いてみてください」など即座に個々にフィードバックがある。

1年谷和奏さん(15)は「次回はどんなことに取り組めばいいかという提案をすぐにしてくれる。先生だと習週の返事になることが多いが、授業が終わってすぐ準備に取りかけられる」と早さと具体性に驚く。

総合的な探究の時間は、課題発見から解決までのプロセスを繰り返すことで、思考力や主体性を育むのが狙い。2022年度から全国の高校で必修化された。「授業の感想や進捗(しんちよく)状況を生徒が紙に書いて集めるとすると、打ち返しにかなり時間がかかっていた」(空野教諭)。今年初め、課題を聞いたアイサイト社が開発を開始。6月から一部講座で試験導入し、改善を図ってきた。

空野教諭は「課題意識が薄れる前に打ち返すことで探究心を伸ばし、個別に最適な学びを実現できる。学びの過程を蓄積できるのも大きい」と手応えを語る。同社によると、県内の複数の高校でも試験導入を予定。仙波東拓常務(40)は「全国どここの高校も同様の課題

を抱えている。普及に取り組みたい」としている。

(森口睦月)